

水圏の生物多様性の「今」を調べ、 ネイチャーポジティブ実現に貢献します

我々は豊かな自然から生態系サービスと呼ばれる多くの恵みを享受しています。生態系サービスの劣化を抑え、持続可能な社会を形成するためには、ブルーカーボン生態系の活用といった気候変動対策とあわせて、生物多様性を増加させる開発(BNG)、30by30などネイチャーポジティブへの取り組みが求められます。

これらは同時に推進することが可能です。例えば、藻場の造成は海洋生態系による炭素吸収・貯留量の増加という気候変動対策であるとともに生物の生息環境を創出し生物多様性の増加にも貢献します。このような取り組みの実現には、生物多様性の「今」を知ることが不可欠です。

当社は豊富な経験と実績に基づいた現地調査、形態と環境DNAを用いた生物相の解明等を通じて、水圏の生物多様性の現状を精度よく把握し、ネイチャーポジティブ実現に資する情報を提供します。

提供するサービス

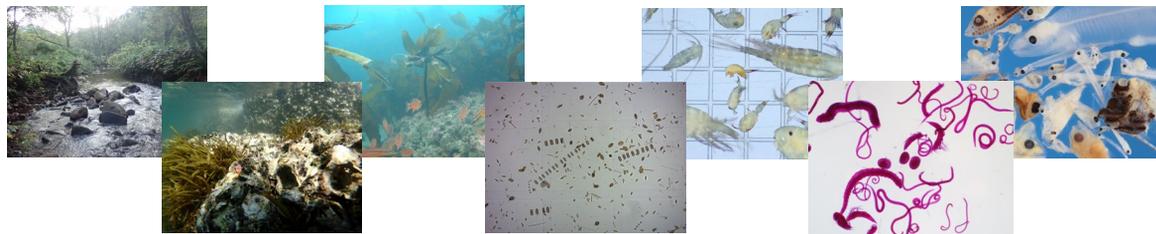
◆調査計画立案および確実な現地調査を実施します

生物多様性の現状を把握するためには、種類数、現存量、貴重種・外来種の分布状況などの基本的な生物情報に加え、胃内容物や安定同位体比などの解析から得られる生態系の構造や、生理・生態情報から得られる生態系の機能を知る必要があります。また、生物をとりまく物理的・化学的環境の計測も重要になります。当社では豊富な調査実績から生物多様性の現状把握に必要な計画を立案し、確実な現地調査を実施します。

◆生物多様性の現状を把握します

ネイチャーポジティブに取り組むためには、当該水域における生息種とその個体数、現存量等の現状を把握し、環境との関係性を評価して、将来を予測することが求められます。当社は、日本全国の特性の異なる水域に生息する生物の形態観察による同定と生態的知見に、環境DNA分析等の技術を組み合わせ、当該水域の生物情報を網羅的に精度よく把握します。また、生物量を炭素量に換算し、物質循環の把握に必要な情報を提供します。

【当社は陸水域～沿岸域～外洋域まで、あらゆる水域に生息する様々な生物を対象としています】



関連発表・論文

金子健司・前畑友香・矢持進. 2007. 高水温期の和歌川河口干潟における貝類の生産とその窒素循環に果たす役割. 水環境学会誌; 30: 513-519.

Hiraoka, R., H. Teishima, T. Takabe, T. Suzuki and Y. Tanaka : Detection of invasive shrimp *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911) using environmental DNA. *Crustacean Research*, 50, 9-15.



株式会社 日本海洋生物研究所

MARINE BIOLOGICAL RESEARCH INSTITUTE OF JAPAN Co., Ltd.

〒142-0042 東京都品川区豊町4丁目3番16号
TEL 03-3787-2471 E-mail mbrij@mbrij.co.jp